

第 2 2 特定屋外貯蔵タンクの一般的な沈下測定方法

1 点検方法

沈下測定ピース又はタンク円周上において10m以下の等間隔の点を測定点として不等沈下量、最大沈下量及び最大沈下率を確認する。

2 水張試験に伴う沈下測定

設置又は変更時における水張試験においては、原則として水張前、満水時及び水抜後の3回沈下測定を行うほか下記のとおりとする。

- (1) タンクの約1/2まで可能な限り早く水を張り沈下量を測定する。
- (2) 不等沈下がない場合は、許可液面高さ以上の3/4まで水を張り、沈下量を測定する。
- (3) 沈下量がわずかな場合、新設タンクについては満水にして48時間、既存タンクについては24時間保持し沈下量を測定する。
- (4) 沈下量がほぼ一定にとどまっていれば終了する。
- (5) 測定結果が良好のときは、同様の条件のタンクでは中間水位での測定は省略することができる。
- (6) 水張り水位の高さは、許可液面高さ以上とする。
- (7) 適度の沈下は、タンク等に有害な変形を与えるおそれがあるので沈下状況を監視しながら水張試験を進める。
- (8) 設置又は変更時において基礎の修正を行った場合は、水抜き後3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月を経過した時に沈下測定を行い、不等沈下の有無を確認する。